

三宅西遺跡 04-2 発掘調査概要

(財) 大阪府文化財センター

★三宅西遺跡調査概要

調査名：三宅西遺跡 04-2

所在地：大阪府松原市三宅西 5 丁目 地先

調査原因：都市計画道路大和川線及び都市計画道路堺松原線（一般府道住吉八尾線）事業

調査機関：(財) 大阪府文化財センター

調査面積：13515 m² (予定)

調査期間：平成 16 年 11 月 1 日～平成 18 年 9 月 29 日

★弥生集落概要

集落域について：段丘際の微高地上に展開

10 区・11 区・19 区

墓域について：微高地上、もしくは集落よりもやや高いところに展開

18 区・19 区

生産域について：水路際の微低地に展開

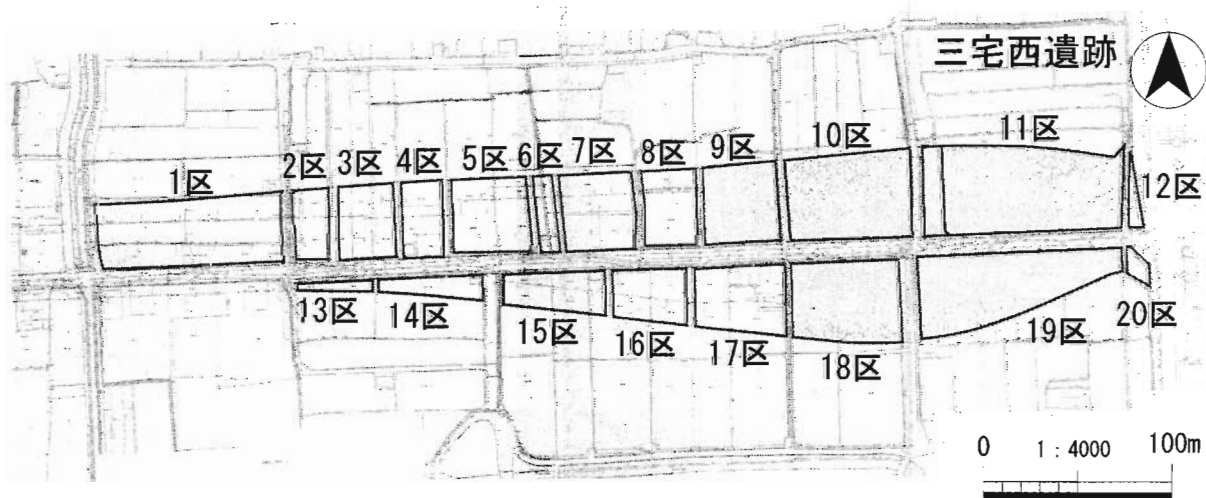
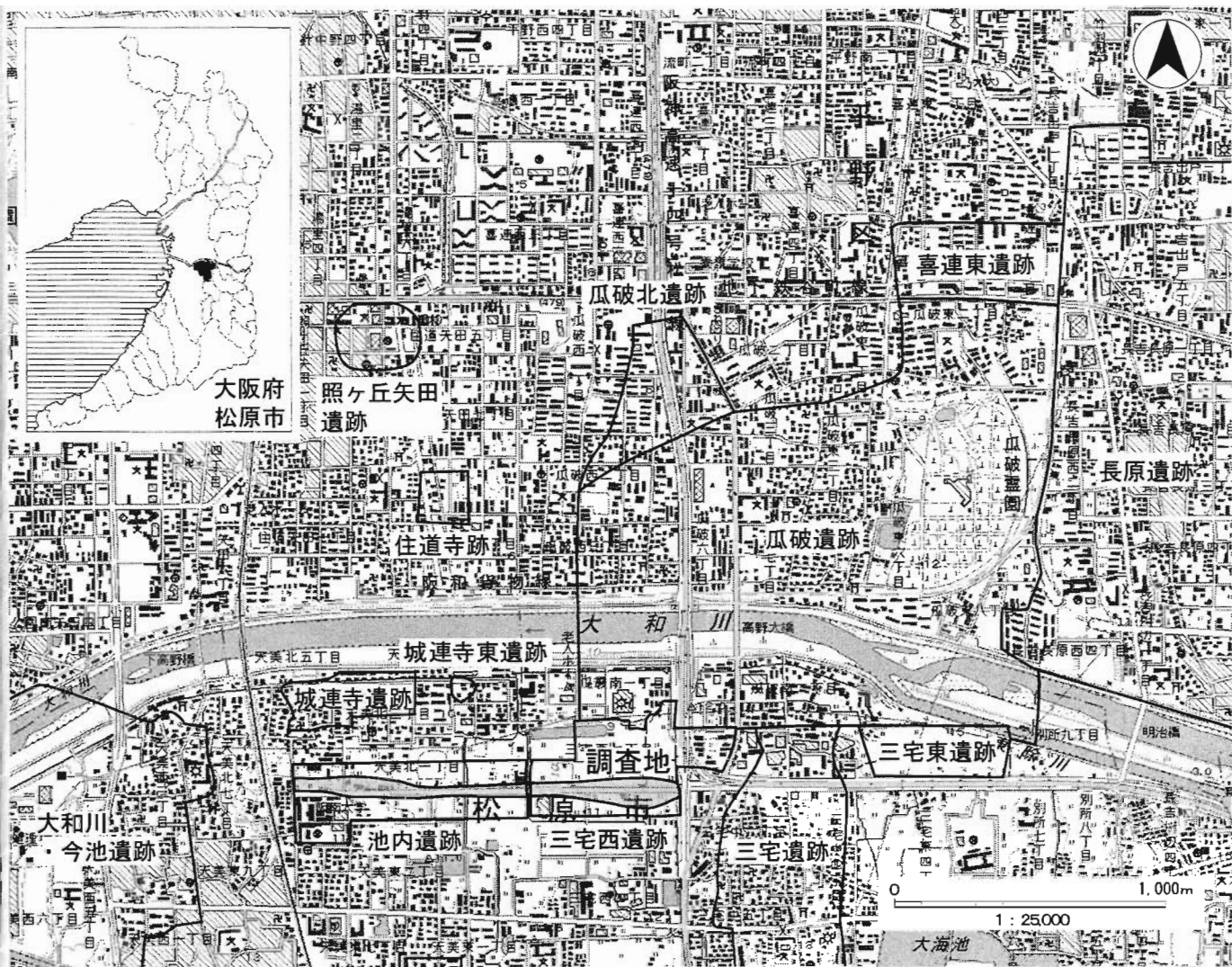
10 区

★遺跡の評価

三宅西遺跡では、弥生時代中期前半（畿内第Ⅱ様式）の弥生集落がコンパクトに検出された。集落は微高地上の自然河川を挟んで東西に展開し、東に位置する自然河川を東限とする。居住域・墓域・生産域などの集落構造が理解しやすい。

検出された住居址からは、サヌカイト製の石器をはじめ、その未製品や、石材・剥片・チップが多く出土している。また、231 住居址の周壁溝からは、5～10 cm 大の剥片がまとまって出土し、これらは石器の原材と推定される。さらに、住居址周辺では、石器製作に伴う石屑を廃棄したと考えられる廃棄土坑を検出している。これらの住居址は石器製作に関する住居址と推定される。

以上のことから、三宅西遺跡は石器製作という集落の一面があり、弥生時代中期前半を中心に営まれていた集落である。



Y=-41, 450

10区

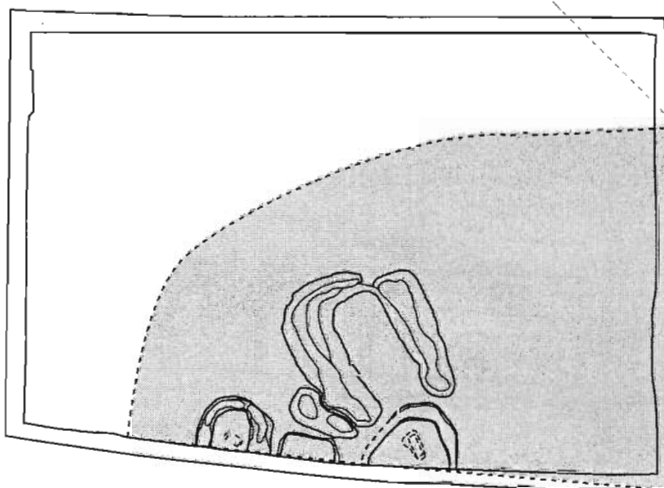


Y=-41, 500

9区



18区



三宅西遺跡04-2
遺跡概念図
(弥生時代中期前半)
S=1/700



X=-155,950

Y=-41,350

11区

Y=-41,300

12区

X=-156,000

4月末検出状況

集落域

自然河川

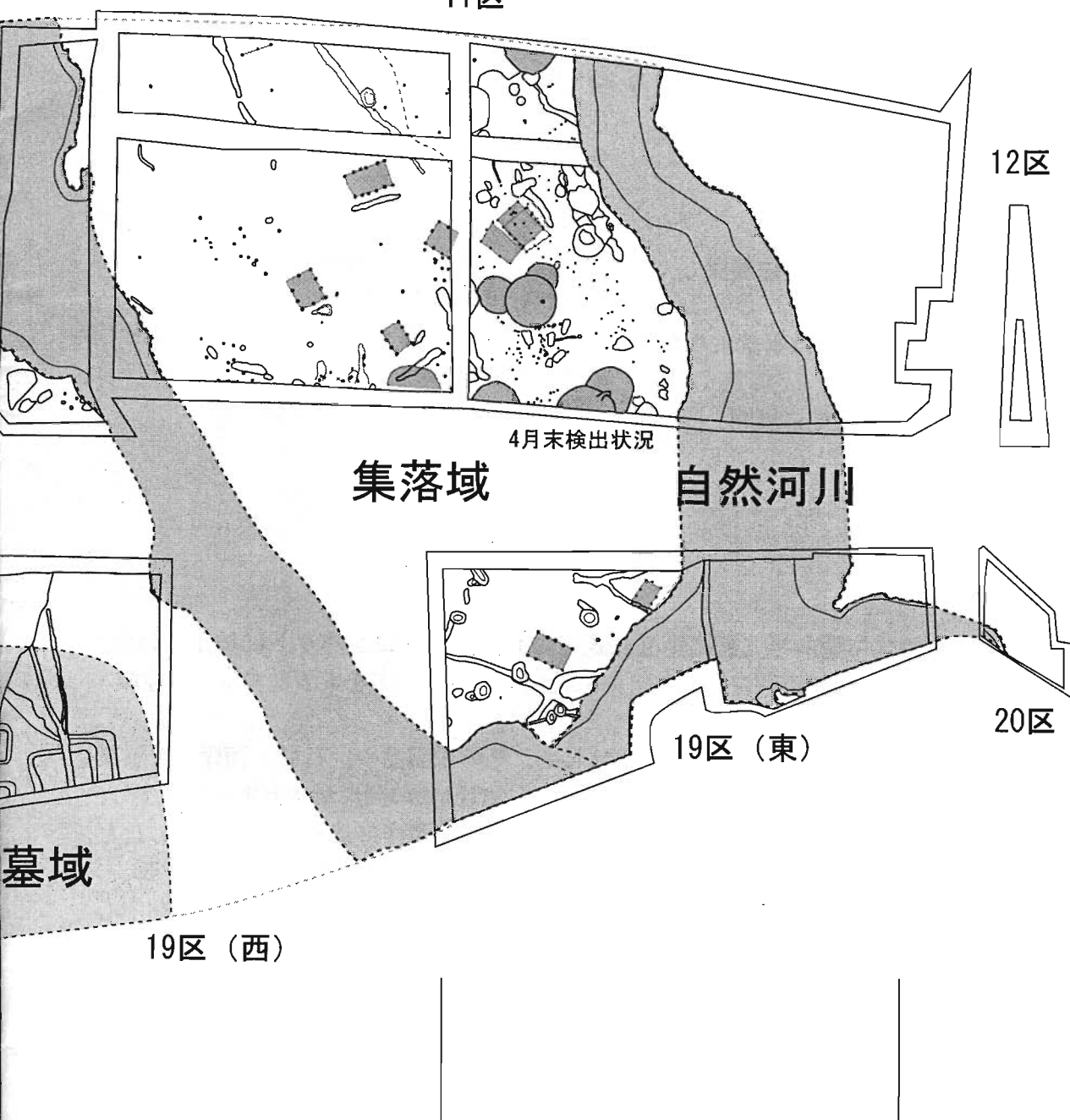
20区

19区 (東)

墓域

19区 (西)

X=-156,050

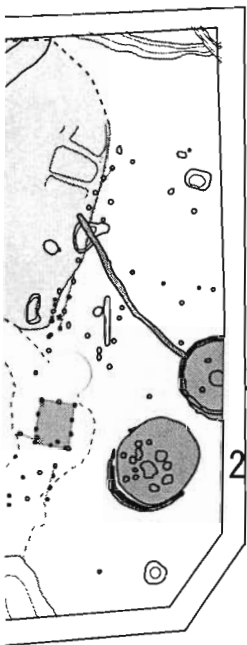


集落域

Y=-41, 350

11区

Y=-41, 400

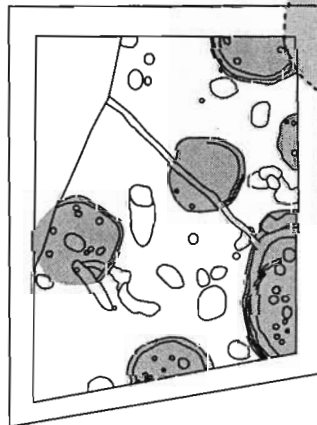


25住居址

26住居址



4月末検出状況



231住居址

131廃棄土坑

19区 (西)

X=

19区

X=

0



-155, 950



10区 25住居址



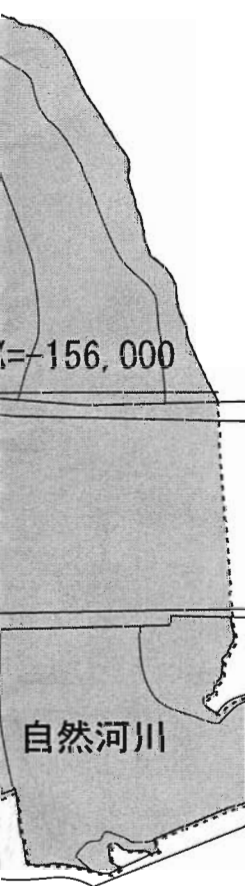
10区 26住居址



19区(東) 全景



19区(東) 131廃棄土坑



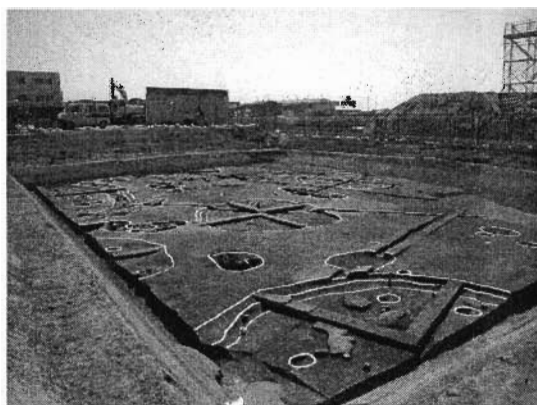
(=-156, 000

自然河川

区(東)

-156, 050

S=1:500 10m



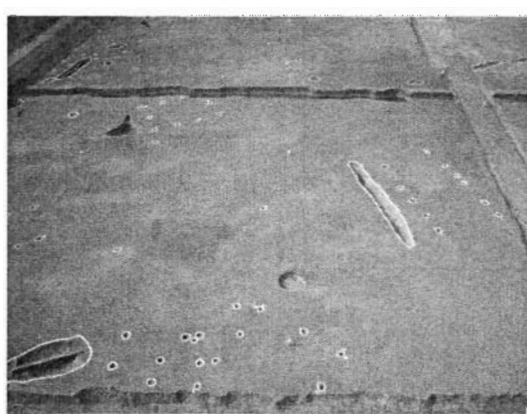
19区(西) 全景



19区(西) 231住居址



19区(西) 全景



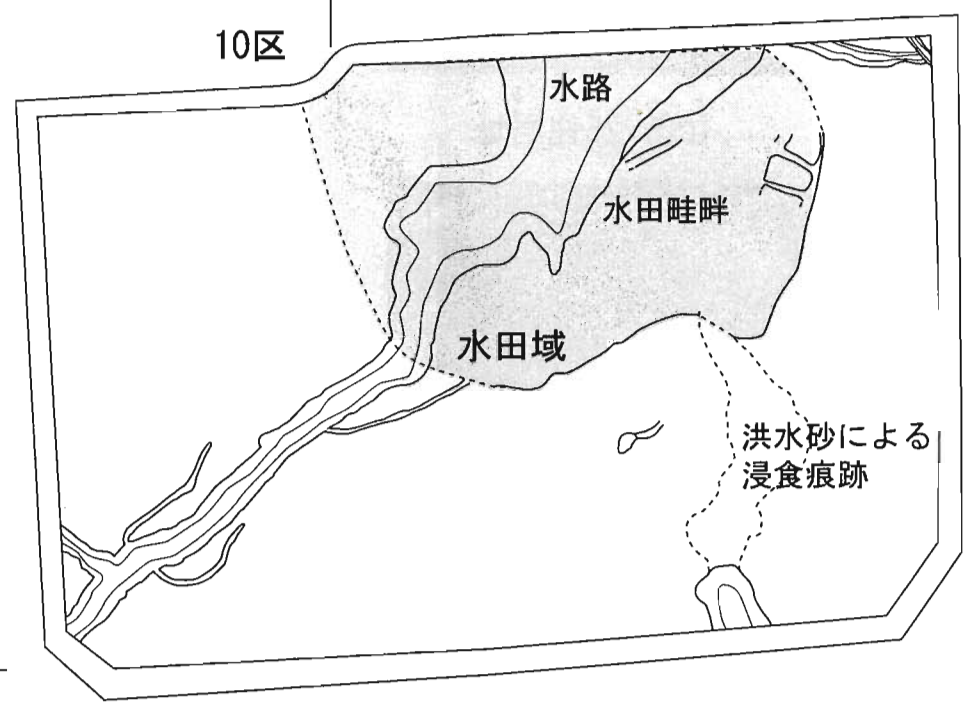
11区 掘立柱建物

X=-155, 950

生産域

Y=-41, 450

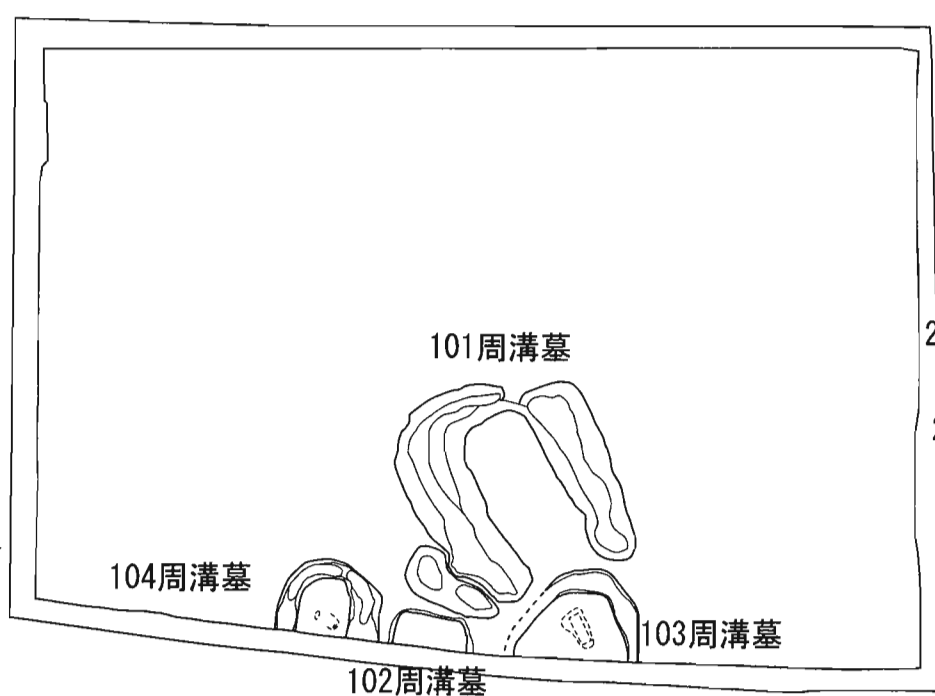
10区



X=-

Y=-41, 400

墓域



X=-

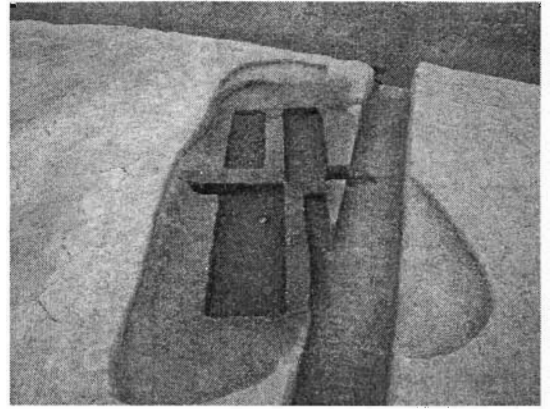
19区

0 5

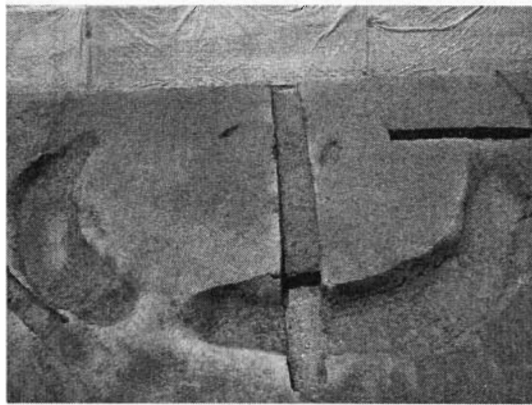
生産域・墓域



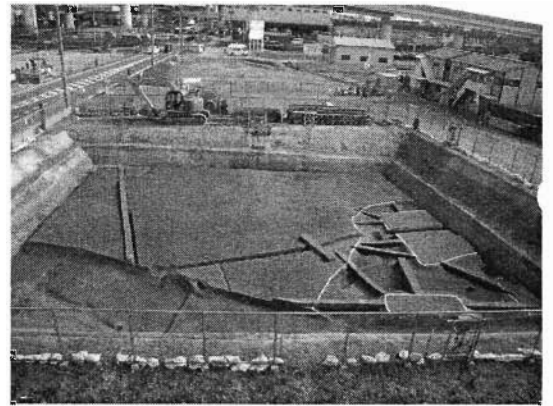
18区 方形周溝墓群



18区 103周溝墓主体部



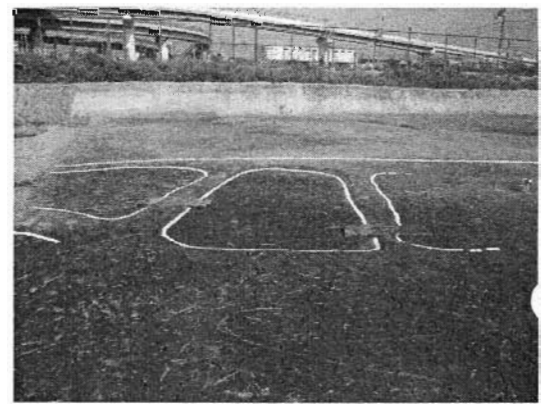
18区 104周溝墓



19区(西) 方形周溝墓群

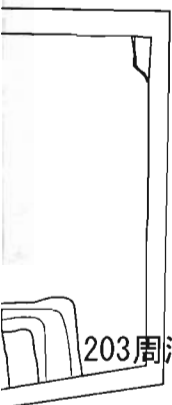


19区(西) 方形周溝墓群



10区 水田畦畔

156, 000



203周溝墓

156, 050

区(西)

1:500 10m